

NPO 八口八口

第 3 回事業地視察会

感想集



【実施期間】 2014 年 12 月 29 日～2015 年 1 月 3 日

(C) NPO HALOHALO

筑波大学

アテネオ・デ・マニラ大学

檜府奈緒子

フィリピンで生活を始めて3か月目。今回の現地視察会で初めてスモークマウンテンを初めて目の当たりにしました。様々な方からお話は聞いており頭では分かっているつもりではいましたが、普段私が生活しているエアコンや温水シャワー、インターネットがあるきれいな環境から、車で数十分の距離の場所にそのような光景が広がっているというのはやはり衝撃的でした。同時に、そこにあるごみには私が普段の生活で出しているものも含まれているのだらうと思うと複雑な気持ちになりました。もしメトロマニラで生活する私をはじめとした人々が分別をきちんとすれば、ごみ山に入って行って危険と隣り合わせで1日中換金できるごみを採すという方法で働く人々は減るのではないだろうか、と。住んでいる場所からも近いこともあり、とても身近な問題として意識させられました。

ファミリーインタビューでお話をお聞きした時に、ここは本当に様々なフィリピンの社会問題が凝縮されている場所なのだと改めて感じました。地方の職の少なさ、職を求めてマニラへの出稼ぎ、マニラでの職不足、生計を立てるためにスモークマウンテンに吸い寄せられる現状、寄付金・支援金として受け取ったお金が必要なところに回っていないのではという疑惑、コミュニティのつながりの弱さによる治安の悪化。一緒に遊んだ時は無邪気にしていた子どもたちも、将来、スモークマウンテン出身ということで差別され、教育を受けたとしても彼らの両親と同じようにごみ山で生計を立てることになってしまうのではないかと、そんな不安もよぎりました。ただ、案内してくださった方、私たちに対応してくださった方の笑顔はフィリピーノらしい明るく朗らかな笑顔で冗談好きで、他のフィリピンの地域とも全く変わらない温かさがありました。その温かさにほっとしました。

スモークマウンテンに住む彼ら、「貧困」と言われる状況に置かれている人々にとって「幸せ」とは何か、という問いは引き続きフィリピン滞在し、様々なことを見聞きする中で、何度も自分に問いかけ考えていきたいと思っています。最後に、この度日頃あまり近づくことのできない場所を訪れることができたこと、現地で生活している方々から直接お話を伺うことができたこと、様々なバックグラウンドをお持ちの参加者の方々と交流させて頂けたこと等、貴重な機会を頂き大変感謝しております。

ハロハロ 2014 フィリピンマニラオブショナルツアーに参加して

榎府暢子

今回親子で参加させていただいたナオママです。どんなメンバーが集まるかと思っていたのですが、全国津々浦々ではなく世界中から参加者が集まっていたのでまずそれにびっくりしました。インターネットをいまひとつ使いこなしていない私たちの世代にとってネット社会のすごさを実感しました。

マニラでの初日は年の差を心配していましたが、それぞれの人たちの考え方がしっかりしていて、「年齢」とか「仕事」とか「国籍」といった一つ一つのことにとらわれずに人と接してくださる様子にすごく安心しました。

私が今回このツアーに参加した理由は、以前からこの地域を一度は訪ねてみたいと思っていたからです。開発教育に出会ってすでに20年以上たっているので、何となく予想はついていたのですが、やはり実際に見て触れて感じるいろいろなありました。たいていのことには驚かないつもりでしたが、ごみの中からあれほどきれいに使えるカバンなどが出てくることにはかなり衝撃を受けました。自分自身も使い切れずに捨ててしまうものが結構あります。でも使いようがなく（すでに持っている）誰かに使ってもらおうあてもなく、結局捨てるしかないのです。最近、洋服は「洋服ポスト」に出すようにしていますが、それも免罪符のようなものです。資源のない日本でこんなことをしていいのかなと改めて思いました。

ここ1年ぐらい私が参加している国際理解教育の研究会では「幸福とは」をテーマに様々な幸福感について考えしています。「国際理解教育がなんで幸福論を？」と思われるかもしれませんが、グローバル化が進む中で、自分たちが何をを目指すのかを考えると幸福の定義が必要になってくるのです。幸福にはいろいろな形や考えがありますが、最終的には健康で安心に自分の器にあったところで生活できることではないかと思えてきています。でも、自分の器に合うというところがなかなか難しく、足りないところで葛藤がおきます。フィリピンの人たちも生活環境（インフラなど）の改善は必要ですが、この環境だから幸せでいられることもあると思うので、その両立は一律には行かない難しい問題だと思います。

と、いろいろ書きつられてきましたが、今回のツアーでも学ぶことはいろいろありました。次のステップはそれをどう行動に移すかです。学校での授業で生徒に伝えたり、日々の生活を見直すとともに、次の世代にどう伝えるか、次世代をどう育てるか、年相応な責任を果たしていけたらと改めて思いました。

貴重な経験をありがとうございました。はるかさん、頑張って活動を続けてください。そしてご一緒できたみなさん、いろいろお世話になりました。それぞれの皆さんの活躍が今後も続きますように。私も何かしらサポートできることがあればいいなと思います。また、どこかでつながるかもしれませんが、そのときはよろしくお願いします。

僕は今までの人生で初の NGO 関連の旅行に参加した動機は、

1. 自分のラーメン屋の仕事に通常の営業とは異なる社会意義をもたせたい。
2. 今のところラーメン屋はますますうまくいっている。
3. 自分はあまり物欲がない。
4. 世界で最も貧困が原因で死んでいく人が多い場所に援助をしようかと考えた。
5. しかしその方法は分からない。NGO を調べてみたが、その実態はよく理解できない。信頼性も低い。
6. ただ自分に現在できることは、ラーメン屋の営業をしながら、そこで使えるお金を援助資金としてどこかへ送ることしかない。

こうやって気持ちが浮遊している時、もっと NGO のやっていることや援助資金の流れなどを知りたいと思い、たまたま冬休みと同時期にあったこのスタディツアーに参加させてもらうことになりました。

フィリピンの貧困地区や問題地域を回りながら視察とミーティングで理解を深めるこのツアーはすごく自分にとって有意義なものになりました。フィリピンの現状問題と、それに対する NGO の役割などを少し知れた事はもちろんよかったですが、何より考えさせられた事は、前に書いた参加動機以外のことで、HAPPINESS についてです。

これはセブ島の貧困地区で家庭インタビューや、ホームステイをさせてもらい一緒に何日か過ごしたときに感じたことで、この地域の住民に、今の生活で幸せですか？と問うと、大体の人は幸せというし、実際にそういう風にも見える。子供たちはいつも遊ぼうと寄ってきて人懐っこく、陽気。いつも外ではしゃぎ回っている。ただハッピーなだけでなく、親や近所の家庭の手伝いもする。小さなこどもが2人で協力して水をポンプで汲み、それを家まで持っていき、料理ができたらずぐにテーブルを出してきてお皿を用意し、水も容易して親を助けている。全て慣れた感じでいやな顔一切せずに、よくできた子供達だなあと感じました。日本だと母親が何かこういう手伝いをお願いすると、子供はゲームやテレビに熱中して、“えー今いやー”とか言って駄々を捏ねるだろうなと思いながら。

実際この地域の暮らしは、日本の昭和、戦後の時代にタイムスリップしたような感じで、お金もなく、カラオケだけはあがるが便利なものもない。ただそれでも日本やアメリカやドイツやスペインやその他の大国と言われる国の人達よりも断然幸せそうにみえるし、実際一緒に住んでいて幸せをいっぱい感じた。この時、貧困、不便＝不幸せ、は完全に間違いであることを実感したし、その逆にも思える程彼らの HAPPINESS のパワーには驚かされました。

では現在のこの状況でそのような幸せな人達に対して、はたして援助が必要なのかということを考えるようになり、援助の意味や必要性がよく分からなくなってきました。援助というのは幸せな人が不幸な状況にある人に手を差し伸べるものだと考えると、その宛先の判断がすごく難しいなと思いました。

他人の生活スタイルに良い悪いはつけられないし、言える立場でもないと思います。ごみ山も異臭を放つし、感染症などを発生するし、環境にもよくないからこのシステムは悪いとは思いましたが、ここでしか働けない人にとっては最終的な職場であって生活の糧なので、今取っ払うようなことをしてはその人達にとって大きなお世話だし、日本も原子力発電のような環境にも人々の恐れにもなるようなものを持っていて、僕たち日本人は何を言えるのでしょうか。

あと、フィリピンの人は生活のごみはすぐにその辺に捨てるし、道や川や、食べ物の市場までゴミだらけです。これも僕は環境に良くないし景観も崩して良くないなと思いましたが、日本では車やバイクでフィリピンの何倍もの排気ガスを出し地球を汚して、何を言えるのでしょうか。なので、そこに住んでいる人達の生活スタイルを深く理解した上で、援助ということが出来るのかなと思い、ハロハロのはるかさんがされている支援活動は、現地の団体と組み様々な情報を得て、そこから必要な支援を行っているところがとても有効的だと思います。

このツアーに参加して、いろんな人と出会い、話しをして、幸せについて考えさせられながら子供たちやみんなからハッピーパワーみたいなものを貰えて、とてもよかったと思います。またこれからの自分の社会貢献についてどうしていくかという考えに役に立つものと思います。ガイドをして頂いたはるかさんと、お世話になった皆さんには大変感謝致します。

スタディーツアーを終えて

赤穂沙織

とにかく現地の人々とふれあえる旅がしたい。と、思って見つけたのが HALOHALO さんのツアーでした。昔から国際協力に興味がありましたが、「スタディーツアー」というものに参加するのは初めてでした。はじめは、「せっかくの休みだし、やっぱりセブ島のビーチでのんびりする方が良かったかな…」と正直思っていました。ツアーに参加するうちにそのような思いは吹き飛んでいました。

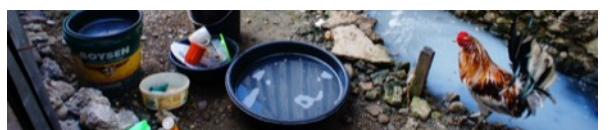
現地の学校訪問、ごみ置き場見学、雑貨作り体験…すべてが新鮮でたくさん考えさせられましたが、特にホームステイが心に残っています。他の国でもホームステイをしたことがありましたが、フィリピンでの生活は飛びぬけてワイルドなものでした。トイレはお隣さんに借り、お風呂は井戸で水を汲んで水浴びをし、おうちの床は土で、二段ベッドで4人で寝る。初めは居心地悪くも感じましたが、慣れていくうちにむしろすがすがしい気持ちになりました。

この旅で一番印象に残ったのはやはり「人」でした。現地のボランティアさんたちと色々案内をしてもらいながら交流することができましたが、「インダイ」といういつも冗談を言いながらケラケラと楽しそうに笑っている女性が、自分の身の上話をしてくれました。中学生くらいの歳から家族のために働き始め、つらい仕事を続けていたこと。毎日泣きながら神様の助けを願っていたこと。そして、その話のあとに言っていたのが「There is no reason to be sad.」一悲しくなる理由なんてない。ということでした。苦しいことを経験してきた彼女だからこそ言える言葉で、とても深みがありました。彼女に限らず、フィリピンの人たちは、苦勞も多いであろうに、いつも「HAPPY」というオーラを全身から出して、とても魅力的でした。こうやっているんならに会って、その人の人生や価値観を知る、これが旅の醍醐味だし、私が求めていたものだと思います。

自分の普段の生活を振り返って、何の不自由もないはずなのに、「もっと、もっと」と欲張っていて、いつもなんだか満たされていない、物足りない気持ちがしていたように思います。そしてフィリピンから戻ったいまも、またその日常にいます。フィリピンでの気持ちを忘れないように忘れないように…と思っていたはずが、また時間にどんどん流されてしまう。現にこの報告書を書く時間ですら、おろそかになっていました。（ごめんなさい。）でも、ほんの小さな一歩ですが、フィリピンでの想いを自分なりに実践できたことがあります。子どもに向けての「もし世界が100人の村だったら」のワークショップです。帰りの飛行機でなんとなくやってみたい、と思っていたことでした。これからも少しずつ、フィリピンでの想いを伝えていけたら…と思っています。

今回の旅で、現地の方々だけでなく、ツアー参加者の方々にもたくさん刺激を頂きました。スペインのラーメン屋さん、青年海外協力隊 OB さん、学校の先生、HALOHALO のはるかさん…皆さんとお話できたことで、「青年海外協力隊になる」「世界一周する」「コミュニティカフェ開く」という私の夢をもう一度現実的に見つめ直すことができました。

この旅で出会ったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



今回私は初めてフィリピンに行き、マニラとセブの2つの地域に行かせて頂きました。

とても印象に残ったことは“ゴミ山”と“そこで生活している人達”のことでした。マニラ、セブと2つの地域でみさせてもらいましたが、マニラではゴミ山は過去のことのように移りました。運ばれてくるゴミの量や臭気は多く感じましたが、想像していたよりはきれいでした。町全体を歩いてみると、ほとんどの家の前でゴミを洗っていたり、それを干していたり。この町全体がゴミを収入源として生活していることがよくわかりました。セブのゴミ山は想像していたもの、いえ想像していた以上の景色がありました。高さは20メートルくらいあるでしょうか。それが遠く遠くまで及んでいて私が見たところからは終わりが見えませんでした。とてもすごい悪臭で、そこに来るまでも臭いがしていました。またその山のすぐそばに家がたくさんあること、住んでいる人達の話の聞いているときに何度も何度もゴミが運ばれてきたことに驚きました。さらに驚いたことは、そこで生活している人達の意識でした。マニラでもそうでしたが、彼らはそこに住むことを“嫌”と感じていなかったのです。はっきり言って私からみたら、とても生活できるような場所ではありません。家という建物があっても、悪臭、ゴミからでる汚い益、有害物質、そしていつ崩れる、火事になるかわからない現状。しかし彼らにとっては、生まれ育った、または住み慣れた“自分達の町”なのです。そしてゴミが彼らの大事な収入源なのです。なんとも言えない気持ちでした。このような状況を生んでいる国のシステムが悲しかったです。



フィリピン政府は、ゴミ山や、医療、教育、小さな村に住む人達の生活から、お金で動くところだと痛感しました。彼らは自分たちに利益をもたらしてくれるところには多く投資し、利益の少ない小さな村に関しては関心がなく、人々の生活さえ知らないように思えます。日本にも様々な問題がありますが、医療・福祉・教育・サービスなどの制度に少なくとも私達は安心して利用できています。でも彼らにはそれがない。安心できる保障やその数も十分足っていないのです。胸が痛みました。

けれども、小さな町や村で生活している人が不幸かというところでもないのです。環境は日本に比べて整っていないかもしれませんが、たくさん問題があります。しかし、日本には足りないものもたくさん持っています。私がホームステイをさせてもらった所からたくさんの恵みを受けました。水道はなく井戸から水を運んで生活します。洗濯は手洗い。シャワーは外で服のまま水浴び。料理はまさに火をつけて行います。普段は電化製品がやってくれることを初めて手作業でやり、大変さもありましたが人の手で生活する原点がありました。そして、そこで住む人たちの暖かいこと。家の中でも、一歩外に出た時でも笑い声があり、村の人々が集まっている姿がありました。すぐそこで、会話やゲームを楽しめ笑いあえる何かを共有する。それは日本に足りないものです。日本に比べて便利ではないけれど、そこには時間がゆったりと流れ、時間の効率性なんて言葉はない。自然な笑顔がたくさんありました。

フィリピンでの体験はこれから私の糧になっていくことと思います。日本の便利さは当たり前ではないこと、そしてだれでも平等にサービスを受けれる社会を目指していきたい。そう思った旅でした。素敵な体験をさせてくれたハロハロに感謝します。

せっかくの休みだから、いつもと違う旅をしたいな…。

なかなかできないことをしたいな…。

という漠然とした思いで、インターネットで探していたところ、この現地視察会を見つけました。英語が話せないこと、治安の心配、一人での参加など不安はたくさんありましたが、とにかく参加してみようと決めました。終えてみると、こんなにも濃くて深い一週間は今までの人生でなかったなと、今は満足感でいっぱいです。



○フィリピンのイメージや「幸せ」の考え方が激変！！

訪れるまでは治安が悪く危険、貧困やスラム・ゴミ山、不衛生など、暗いイメージしかありませんでした。確かにそんな面も持っているかもしれませんが、私が見てきたフィリピンの人たちは、陽気で日本から来た私たちを温かく優しく迎えてくれる素敵な人たちでした。そして、「あなたは、幸せですか？」と質問するとどの人も迷わず「幸せ。」とこたえていました。お金や物品の面で恵まれていているのに、なぜか幸せを感じていない人が多い日本と、貧しくても家族がいれば幸せだというフィリピン。「貧しい＝不幸」ではないと、改めて気づかされました。

○日本や普通の観光ツアーでは味わえない現地の生活体験

水道がなく、洗濯や入浴のときには井戸から水を汲んでくる。トイレがない家もあり、あったとしても水は流れず、手桶で水を汲んで流さなければならない。入浴は野外のため、服を着たまま体を洗わなければならない。外に出れば、アヒルやカモなどの動物が散歩をしていて、朝は鶏の鳴き声で目覚める。そんな、日本では考えられないような生活体験をすることができました。そして、今回のツアーでは年越しもフィリピンで。歌とダンスが大好きなフィリピンの人たちと夜中ずっと踊り通し、フィリピン中からあがる花火を見ながら新年を迎えました。この経験は一生忘れないと思います。



○フィリピンに本当に必要な支援って？

フィリピンの貧困はメディアでたくさん取りあげられ、たくさんの支援が入っているそう。しかし、行政がうまく機能せず、お金や恩恵が貧しい人にまで届かない現実もある。ゴミ山に住む人々の生活をよくしようと、住むところを用意しても、生活が続かずまたゴミ山に戻ってくるなど、彼らの本当に必要な支援になっていないこともある。そして、食べ物などをあげるだけの支援は一時的なもので、長期的な支援にならない。本当に必要な支援は「経済的な自立を支えること」など、現地の人の話や、参加者との情報交換の中で、フィリピンの支援の現実を知ることができました。そして、フェアトレードやマイクロファイナンスなど、私が今まで知らなかった自立支援について学び、今うまく機能し始めている様子を自分の目で確かめることができました。



このように約1週間の現地視察会でたくさんの経験をする事ができ、たくさんのことを学ぶことができました。そして、さまざまなところで活躍されている参加者の皆さんと出会い、たくさんの考え方や生き方を聞くことも良い経験となりました。このような素敵な出会いと経験をする場を提供して下さった HALOHALO さんには深く感謝申し上げます。

(マニラ) ごみ捨て場の思いやり学校『パーランパンタオ』訪問

- ・ フリースクールの子どもたちと折紙や縄跳び、ダンスで交流。
- ・ 地域散策をして、地域行政の施設を訪問したり、家庭訪問を実施。



(セブ) 漁師の村を訪問しスラムの生活体験と住民組織の支援活動を視察

- ・ 観光（歴史、ビジネス街、ショッピングモール、市場など）・ ゴミ廃棄場訪問
- ・ 子どもクリスマス会の実施(食事配給) ・ 家庭訪問 ・ ホームステイ など。





(参加者の皆様)

赤穂沙織さん 賀屋はるかさん 島崎結さん 檜府奈緒子さん 檜府暢子さん
 林真理子さん 吉行大樹さん (五十音順)

(現地協働団体)

Paaralang Pantao ～パーランパンタオ～ 校長：Letticia B. Leyes 教師：Mariafhel Deguerio

Samakabai ～サマカバイ～ 生計支援役員：Ma.Loida Pacoma-Matudan

マニラ地域ボランティア：Catherine Canceran、Andrei Matudan

Tulay sa Kinabuhi トゥーライサキナブヒ 代表：Glemar N Rada

セブ地域ボランティア：Genelyn L. Parame、Elgie Mella

(NPO ハロハロ現地ボランティア) マニラ：降幡知真、櫻本卓真 セブ：池田歩、湯口樹子

(アテンド) 成瀬 悠

特定非営利活動法人ハロハロ www.npohalohalo.org
 〒164-0002 東京都中野区上高田 3-1-3 野田ビル 3F
 TEL/FAX 03-6312-7043 MAIL info@npohalohalo.org